愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	現代中国論		
担当者(Instructors)	竹越 美奈子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

中国が世界の経済大国となって世界で影響力をもつようになった現在では、中国に関心がない人でも、中国の問題や動向を無視できなくなった。しかしながら、長い歴史と広大な国土と多くの人民・民族・言語をもつ中国を理解するのはたやすいことではない。2022年は、おりしも日中国交正常化50周年であった。本講義では、そのような中国を、中国近現代史、日中関係史などの分野から多角的に見る視座を示すこととしたい。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	毎回各テーマについての講義（パワーポイントによる講義、関係するドキュメンタリー映像、関係する書籍・新聞記事・評論など）を聴講し、授業後に400字程度のリアクション・ペーパーを提出する。最終的には期末レポートを提出する。 なお、原則として対面での講義を行うが、授業の進捗状況に応じて、リモートによるものが効果的と考えられる場合、3回程度リモート授業を実施する予定である。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス 中国はなぜ理解しにくいか	中国の理解のしにくさ／中国の広さと多様性／漢民族内部の多様性／漢字の役割／複雑な日中関係	□
第2回	中華人民共和国への道	現在の中国はどのようにできたか／2000年の皇帝制度／遊牧民族の遺産／共和制中国の針路／中国国民党と中国共産党／抗日民族統一戦線／中華人民共和国の成立	□
第3回	社会主義から改革開放へ	新民主主義から急速な社会主義化へ／大躍進運動の失敗／調整政策から文化大革命へ／米中・日中国交の樹立／文化大革命の終結／鄧小平から江沢民へ／民主化と法の支配／中国ナショナリズムの高揚／習近平体制	□
第4回	国交正常化50年(1)	新聞記事にみる国交正常化50年／周恩来の遺言	□
第5回	国交正常化50年(2)	テレビ報道に見る国交正常化５０年	□
第6回	日中関係史(1)	白村江の戦い／朝貢と冊封	□
第7回	日中関係史(2)	元の中国支配／明代の皇帝たち	□
第8回	日中関係史(3)	清の成立と隆盛	□
第9回	近代国家への模索	「眠れる獅子」と「東亜病夫」／魯迅と「救国」の課題	□
第10回	革命とナショナリズム	孫文の遺言／「弱国」としての中国から「大国」としての中国へ	□
第11回	社会主義への挑戦	戦後復興の希望と混とん／冷戦の中の国づくり／急進的社会主義路線「大躍進」の頓挫／試行錯誤する社会主義／文化大革命／転換を迫られる文革路線	□
第12回	自民党と中国	日中関係はなぜ悪化したか／田中角栄と大平正芳／「チャイナ・スクール」と「廖班」／経世会支配と日中関係／政権再編と日中関係／小泉純一郎政権の誕生／落日の経世会／普通の二国間関係へ	□
第13回	1972年の日中国交正常化	周恩来の決断／戦犯政策／広がる文化交流／LT貿易／米中接近の陰で／ピンポン外交／国交正常化の懸案事項	□
第14回	中華世界と中華世界システム	西を目指す戦略一帯一路／ユーラシア統合／世界の多極化／中国の知識人たちの受け止め／冊封一朝貢体制／冊封を受ける側のメリット／冊封一朝貢体制への挑戦／冊封・朝貢の変容とその挫折	□
第15回	まとめ	これまでのまとめと補足	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

授業前にテキスト・参考図書等を読んでわからない点を調べておき（2時間程度）、授業後はテキスト・参考図書および授業中に配布した資料を用いて復習する（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業中に学生が書いたリアクション・ペーパーは、次回授業でまとめてフィードバックし、全体で共有する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2021国際ビジネスDP2	経営環境に影響を及ぼす国際関係の変化や中国との関係について関心をもち、論理的な思考のもとに国際的な視野に立って判断することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
90%			10%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回授業後に400字程度のリアクション・ペーパーを提出する

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	光田剛編『現代中国入門』ちくま新書	19120222011006
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	岩波新書『シリーズ中国近現代史①～⑥』	978-4-00-431250-5ほか
2		
3		
4		
5		